

7月8日 ルカによる福音書6章46～49節

【解説と黙想】

確かな土台

マタイの山上の説教の締めくくりとしても有名な「家と土台」のたとえである。ルカでも、平地の説教の締めくくりになっている。このたとえは、御言葉を聞くだけで終わる者ではなく、それを行う者となることの大切さを教える。

46節のはじめの一言を読み飛ばしてはならない。「わたしを『主よ、主よ』と呼ぶ」とは、いつも礼拝している姿を表現している。ということは、46節は「わたしをいつも礼拝していながら、なぜわたしの言うことを行わないのか」ということ。聖書の話の聞くだけで、生き方を変えない私たちの頑なな姿を痛烈に戒めている。

「わたしの言葉を聞き、それを行う人」はどんな人かが48節に記されている。「地面を深く掘り下げ」とあるが、直訳すると「穴を掘り、深くする」という言い回し。聞いた御言葉を掘り下げる、という作業をしているか。「深くする」とは、どん底のような気持ちや状況にまで落ちて、そのようなかで御言葉の意味を知る、ということも含まれよう。福音は貧しく低い(別訳「気落ちした」)者に告げられるものだからである(ルカ1:48、4:18、イザヤ61:1)。

「岩の上に土台を置いて」とあるが、「岩」はもちろんキリスト、また御言葉のこと。そこに深く支柱を打ち込むことで、家は堅固なものとなる。ときとして、御言葉は聞く者を打ち砕くこともある。そして、それによって深い悔い改めに至らせるであろう。このように御言葉を深く受け入れて「岩」にしっかりと土台を置いて家を建てたなら、激流が押し寄せても揺り動かされることがない。

逆に、打ち砕かれた経験、どん底で御言葉を聞く体験、御言葉によって深い悔い改めに至らされることなしに、その人がほんとうの意味で御言葉に立つことはできないだろう。それが「土台なしで地面に家を建てた人」(49節)。御言葉体験のない人は、

激流が押し寄せたときに、「たちまち倒れ、その壊れ方はひどい」。

「倒れる」は「完全に+落ちる」という成り立ちの語。屋根も壁も梁も全て崩れ落ちるくらい壊滅的な状態になるということ。

「壊れ方(破壊)」という語は、「(豚が)かみつく」(マタイ7:6)、「(悪霊が)引き倒す」(マルコ9:18)、「(悪霊が)投げ倒す」(ルカ9:42)と訳されている動詞から来ている語。悪い思いにとらわれてしまったときの感情の噴出を思い出してみればよい。それが「ひどい」と言われている。礼拝には来ているが、御言葉を聞いているだけの人はこうなりやすい、と言われている。思い当たることはないだろうか？

詩編124編が思い出される。

イスラエルよ、言え。

「主がわたしたちの味方でなかったなら主がわたしたちの味方でなかったならわたしたちに逆らう者が立ったときそのとき、わたしたちは生きながら敵意の炎に呑み込まれていたであろう。そのとき、大水がわたしたちを押し流し激流がわたしたちを超えて行ったであろう。

そのとき、わたしたちを超えて行ったであろう、驕り高ぶる大水が」

主をたたえよ。

主はわたしたちを敵の餌食になさらなかった。

仕掛けられた網から逃れる鳥のようにわたしたちの魂は逃れ出た。

網は破られ、わたしたちは逃れ出た。

わたしたちの助けは

天地を造られた主の御名にある。

岩に据えられた土台の上に立つ人は、主が激流(大水・死)から救い出してくださる。
(赤石めぐみ)

《参照箇所》 ヤコブの手紙1章22～27節

《教理問答》 「子どもと親のカテキズム」問33

7月8日 ルカによる福音書6章46～49節

【説教展開例】

家と土台

◇..... 単元のねらい◇

神の国の福音は信じて行わなければ空しい。岩なるキリストを土台として生きよう。

「岩の上に土台を置いて家を建てた人とは？」

先週、イエスさまの「敵を愛しなさい」「人を裁くな」という教えを聞きました。「悪口を言う者に祝福を祈り、あなたがたを侮辱する者のために祈りなさい」(6:28)、「敵を愛しなさい。人に善いことをし、何も当てにしないで貸しなさい」(6:35)と言われましたが、「ムリ！ 却下！」と思っ

ていませんか？ 今日、今日の個所の最初で、「わたしを『主よ、主よ』と呼びながら、なぜわたしの言うことを行わないのか」(6:46)と言われていきます。「『主よ、主よ』と呼ぶ」とは、いつも教会に来て礼拝している、という意味です。「いつも教会に来て礼拝しているのに、なぜわたしの言うことを行わないのか」。みなさんはどうですか？ イエスさまの言葉のとおりをやってみたことがありますか？ イエスさまの言葉(教え)を聞いて、聞くだけで終わりにしないで、そのとおりにやってみる(行う)ことがどんなに大切か、ということ、今日イエスさまは教えてください。

イエスさまの言葉を聞いて行う人は、「岩の上に土台を置いて家を建てた人に似ている」そうです(6:48)。岩の上に土台を置くためには、固い地面を深く掘らなければなりません。砂遊びでトンネルを作ったことはありますか？ 砂はさらさらしているから、穴を掘りやすいですね。シャベルを

使わなくても、手でも掘れますね。でも、岩に穴を掘ろうと思ったら、そうはいきません。シャベルでは岩は掘れません。硬い石を砕く道具が必要です。そして、砂のように早く掘れません。ちよつとずつちよつとずつしか掘れません。でもそういうふうにして穴をたくさん掘ってそこに土台を置いて家を建てると、その家は洪水が来ても押し流されない丈夫な家になります。こんなふうにならなかつちよつとずつちよつとずつしか掘れない硬い岩って、何のことを言っているのでしょうか？

そういう丈夫な家を支えている硬い岩とは、もちろんイエスさまのことです。イエスさまのことを語る御言葉にはとっても深い意味があるので、うんとたくさん掘って深くしないと、意味を探り当てられません。

「岩の上に土台を置いて家を建てる」とは、わたしたちが、聖書の言葉をちよつとずつちよつとずつ知って、イエスさまに従う生き方に変えられていく、ということです。ときには、御言葉を聞いて打ち砕かれて、自分の罪に気づかされて、それを知ってどーんと落ち込むような気持ちになって、でも、その中で「そういうあなたを神さまは救ってくださるんだよ」というメッセージを聞いて励ましを受け、立ち上がり、御言葉に従って、御言葉のとおりを行って歩むということです。イエスさまの教え・

御言葉の意味をそういうふうにしてだんだんと深く知っていくということです。毎週礼拝に来て、聖書のお話をそういうふう聞いて、一週間、聞いた御言葉のとおりやってみようとして生きている人は、試練が襲ってきても、悪いことが降りかかってくる、倒れてしまうことはありません。揺り動かされることすらない、とも言われています。

逆に、「聞いても行わない者は、土台なしで地面に家を建てた人に似ている」と言われています。礼拝で聖書のお話を聞いても、自分の罪に気づくことなく、悔い改めることもないなら、ただ岩の上に家がのっかっているだけです。レゴブロックの家をレゴの板に挿してあれば動きませんが、つるつるの板の上に置いただけなら、すべってしまいますね。それと同じように土台のない家は、家を支えるものが岩にささっていませんから、川の水が押し寄せるとすぐに倒れてしまいます。しかも、「その壊れ方はひどかった」と書いてあります。「壊れる」とは、「気が狂っているように見える」人を「壊れている」と言うことがあるように、聖書の言葉でも同じです。御言葉を聞くだけで行わない人は、御言葉がちゃんと心にとどまっていないので、試練が襲ってきたり、悪いことが降りかかってくる、イエスキリストの言葉を忘れて、人を愛するどころか、悪くすると神さまを信じることができなくなります。

「敵を愛しなさい」という教えについて言えば、この御言葉を聞いたときに、具体

的に「敵」と思われる人が思い浮かぶなら、自分がその人を愛することができない現実を見つめ、それが御言葉のとおりでないこと・神さまの御心でないこと・神さまの御心に従えていない自分の罪深さを悲しみ、神さまに赦してください・御言葉のとおりその人を愛せるように力をください、と祈り、御言葉のとおりに行ってみるのが「岩の上に土台を置いて家を建てた人」です。

「敵を愛しなさい」という御言葉を聞いても、自分にはムリ、と御言葉をはねつけて、自分の悪いところをちっとも顧みず、相手の方が悪いと責め続け、そのままの地面の上で信仰生活を送っているなら、たとえ毎週教会に来ていても、その人に会うたびに心が動揺し、「だからやっぱりこの子は嫌い！」とますます憎むようになってしまいます。だから、イエスキリストは私たちがそんなことにならないように、「岩の上に家を建てなさい」と教えてくださいました。

今週の暗唱聖句を見ましょう。

「御言葉を行う人になりなさい。自分を欺いて、聞くだけで終わる者になってはいけません」(ヤコブ1:22)。

みなさんは、神さまの子です。イエスキリストの十字架によって、神さまにすべての罪を赦していただいたはずの子です。神さまの子が、神さまの子らしく生きていないことは、「自分を欺くこと」です。神さまの子は、「御言葉を聞いて行う人」「岩の上に土台を置いて家を建てた人」のはずです。わたしたちが本当に神さまの子らしくなれるように、祈りましょう。(赤石めぐみ)

《今週の暗唱聖句》

御言葉を行う人になりなさい。自分を欺いて、聞くだけで終わる者になってはいけません。(ヤコブの手紙1章22節)

7月8日

【幼稚科】

家と土台

〈ねらい〉

イエスさまの福音を聞くだけでなく生きることが大切。福音に生きることはイエスさまに土台を置くこと。土台は普通、人目には触れないがとても大切なことを伝えたい。

〈展開例〉

みんなはお友達のお家に遊びに行っただけですか。お友達は「お父さんが新しいテレビを買ったよ」っていっぱいかもしれません。お友達の家にはきれいな洋服ダンスもあるかもしれません。みんなはお友達のおうちにあるもので、これいい！ って思ったものありますか？

でもお友達の家遊びに行く時に、大きなスコップを持って行って、お家の地面の下がどんなかなって穴を掘ったことがありますか？ 多分そんな人はいないと思います。でもイエスさまはそういう見えないところが大事と言われるのです。びっくりしますね。イエスさまは、みんなのお家の地面の下を見てみたいんです。ちょっと変わっていますね。

お家は普通のときは大丈夫だけど、大きな地震や台風が来たときにお家がビリビリと震えることがあります。でも大きな地震でも台風が来ても、大丈夫なお家は土台がきちんとしているお家です。

土台と言うのは地面の下にあって普通は見ることがないけど、とても大切なんです。台風とか地震が来たときにそのお家が大丈夫なお家かどうか分かるんです。

イエスさまはみんなのお家やみんなの家族が大丈夫かどうかを心配しています。どんなお家が大丈夫なんでしょうか。それは土台がしっかりとあること。イエスさまという土台のうえにみんなが乗っていることです。イエスさまがみんなの土台です。

イエスさまを土台にすることは、イエスさまの話した言葉を守ることと同じです。イエスさまを土台にすると、僕たちはどんなにこわい時でも、あんしんできます。世界で一番丈夫なお家はイエスさまの上にとてたお家です。

〈やってみよう〉

①教会にブロックがあれば、ブロックで家を二つ作って机の上に置く（段ボールなど素材は何でも良いと思う）。一つは机に固定して、一つは固定しない。机を傾けると固定していない方は落ちこちてしまう！（子どもたちに団扇の風を使って家を動かす競争させてみてもよいかもしれません）

②大きな木はその木の下に同じくらいの大さの根っこを持っているはず。ネットなどで調べて、子どもにたちに大きなものを支えるには、それ相当の土台がある写真などを見せる。

〈お祈り〉

天の神さま、僕たちのことをいつも心配してくださってありがとうございます。どんな時でもこわれない、僕たちを大好きなイエスさまという土台にいつも乗っていることができるようにしてください。イエスさまのお名前でお祈ります。アーメン。

7月8日

【小学科上級・中学科】

家と土台

1. ルカによる福音書6章46～49節を読みましょう

①47節に、イエスさまと出会った人の3つの段階が書かれています。どのような段階ですか。

②3番目の段階にいたった人は、どのような人ですか。その人は、最後にどうなりますか。

③3番目の段階にいたらなかった人は、どのような人ですか。その人は、最後にどうなりますか。

④「地面を深く掘り下げ」とは、どういうことだと思いますか。

⑤「家」はなにを表していると思いますか。

⑥「川の水」はなにを表していると思いますか。

7. あなたは「地面を深く掘り下げ」ていますか。